



『覚・求・徹』

～ 校長室だより ～

令和6年4月12日
第1号
葛城市立白鳳中学校
校長 中川 順一



昨年4月、10年振りに白鳳中学校に赴任しました校長の中川順一です。今も新鮮な気持ちでいっぱいです。校長室だよりを通して校長室からうかがえる学校の姿をお伝えできればと思います。タイトルは本校の校訓から一文字ずつとり『覚・求・徹』としました。白鳳中学校の生徒がこの校訓を常に心に刻み、学校生活を充実したものにしていってくださることを願い、タイトルとしています。

令和6年度白鳳中学校の新たな教育活動がスタート！

新2、3年生だけの4/8の着任式と始業式。大変落ち着いた雰囲気の中でのスタートでした。始業式では、私から「白鳳中学校を昨年に引き続きもっと『居心地の良い学校』にしましょう！」と話しました。「花笑む」という大和言葉から花が咲くようなみなさんの笑顔があふれるための源として3つのCを示しました。Cross (交わる、交流する)、Change (変化する)、Create (創造する) です。いろいろな人と交わり、より良い変化を求め、新しい白鳳中学校の文化を創造していきましょう！



周りの人たちとの関わりへの入り口に「あいさつ」があります。この「あいさつ」が「花笑む」ためのエネルギーとなります。大切にしていきましょう。

4/10、晴れの入学式。新入生男子71名、女子76名、計147名を迎え、緊張感の中にも「やる気」と「希望」に満ちた姿で点呼にも大きな返事で答えてくれました。



新入生のみなさんには、なかまと一緒に楽しく学ぶためのやるべき事を伝えました。パリオリンピックのマスコット、フリーズのモットー「ひとりだとしても速く行ける。でも一緒ならもっと遠くへ行ける。」という人々が協働し、高め合うことの大切さにならない、白鳳中学校は「ひとりでもしっかりと学べる。でもみんなと一緒にならもっと楽しく学べる。」そんな学校を目指します。本校の校訓「覚めよ・求めよ・徹せよ」をしっかりと胸に刻み、これから始まる中学校生活を私たちと一緒に素晴らしいものにしていければと思います。



→
校舎の桜も満開
でした。



→
昨年秋に山本地域コーデ
イネータから指導を受け
ながら環境美化委員が植
えた中庭の花々です。



第74回創立記念日(4月22日)

昭和24(1949)年當麻中学校と磐城中学校の両校が合併し、白鳳中学校が設立されました。当初の校舎は、竹内(現総合体育館)に建築されていましたが、昭和48年度には現在の校舎が新築され、旧校舎にあった校訓碑も、現在の場所(正門内左側)に移されました。

磐城・當麻の両中学校が合併したとき、校名を各方面から募集し、「白鳳中学校」と決まりました。當麻町の歴史的遺産である當麻寺が、白鳳時代に造営され、「當麻町は白鳳文化の郷」と言われたことに由来します。

白鳳中学校の名称から、「鳳凰」がシンボルとして校章及び校旗に使用されています。鳳凰は、中国でめでたいときに現れる鳥だと言われています。

始業式で2,3年生のみなさんに紹介した小泉吉宏さんの「一秒の言葉」という詩です。 ↓

「一秒の言葉」

作者 小泉吉宏

「はじめまして」

この一秒ほどの短い言葉に、一生のときめきを感じることもある。

「ありがとう」

この一秒ほどの短い言葉で、勇気がよみがえってくることもある。

「おめでとう」

この一秒ほどの短い言葉で、幸せにあふれることもある。

「ごめんなさい」

この一秒ほどの短い言葉に、人の弱さをみることもある。

「さようなら」

この一秒ほどの短い言葉が、一生の別れになることもある。

一秒に喜び、一秒に泣く。 一生懸命、一秒。 人は生きる。



吹奏楽部が

葛城市菜の花まつりで

オープニングを飾る!

4/6(土)本校吹奏楽部が葛城市菜の花まつりに出演し、イベントのオープニングを飾りました!



當麻寺練供養会式(4月14日)

4月14日は中将姫の命日に中将姫が生きたま極楽浄土に迎えられた現身往生を再現したものです。練供養式では西方極楽浄土を象徴する本堂(曼荼羅堂)と俗世間を象徴する娑婆堂を観音菩薩などが往復します。

先月、21日に国の重要無形民俗文化財に指定されました。1,000年以上続く葛城市の伝統行事です。



保護者のみなさま

保護者のみなさまや地域の方々には本校へのご支援、ご協力に感謝申し上げます。本校が、生徒を中心として、教職員、保護者、地域の方々とともに**チーム「白鳳中学校」**として前進していければと願っております。